



6月。学び舎に子どもたちの生活がゆっくりと戻ってきました。登校を待ちわびた子、家で過ごすリズムを楽しんだ子。思いのほか長くなった不在をゆっくりと埋めるように、それぞれが、新しい教室にゆっくりと足を踏み入れ、感触を踏みしめたことでしょう。紫陽花の季節もやがて終わり、夏はすぐそこにやってきています。

6月の入学式 1年生全家庭の感想文集



予定されていた 4 月 11 日の入学式は臨時休校の中での延期となり、2か月後の 6 月 7 日によくやく全員揃って横浜シュタイナー学園の玄関をくぐった 1 年生。この記念すべき入学式について、16 期生の全家庭から感想文が集まりました。さまざまな想いを追体験しながらお読みいただけた幸いでです。(1 年生担任 長井麻美)

...

通常とは異なる簡略化された式で、なおかつ当初は密を避けるために保護者 1 人のみの参加の予定だったので、当日の入学式を両親そろって迎えられたことは感慨深いものでした。

コロナ禍で生活は激変し、当たり前のことが当たり前にできなくなってしまったけれど、この日の子どもたちの笑顔を見ていたら、「あ、何が起きてても大丈夫だ」と胸にストンと落ちました。

人生はいつ何が起こるか分からない。

でも、自分で思い描く人生を自由に生きることができます。

人生の根幹である大事な時期にシュタイナー教育に携わることができたことに誇りを持っています。

素敵な出会いに感謝です。

これから親子ともども、9 年間お世話になります。よろしくお願ひいたします。

(安齋有紀子)

...

このご時世の中、願っていた両親そろっての入学式参加を実現してくださり、集えたことにとても感動しました。ご尽力くださった先生方の熱い思いに感謝いたします。

ちょっとの時間でしたが、皆が一堂に会することができて、このメンバー、この家族で育っていくという実感がわきました。子どもたちの嬉しさ、気恥ずかしさを感じました。

個別の入学式キャラバンでこの学園にしてよかったと感動しましたが、再び心に響いた二度目の瞬間でした。

(薄井裕香子)

...

コロナ禍の中で始まった生活。

入学式も当初は出来ず、先生が我が家に来てくださって行った入学式は、本当に感動的でした。

その後、ようやく 6 月になり全体での入学式を迎られ、子どもがどんなクラスメイトと一緒にこれから 9 年間を歩んでいくのかが徐々にイメージできるようになりました。

ただ実は、我が家としての入学式当日のハイライトは、式の後に行われた授業から帰ってきた息子が、「知ってた? 学校って失敗するところなんだって。失敗したらそこから始めればいいんだって。」と目をキラキラさせながら話してくれたことでした。

一番大切なことを、最初の日に教わってきた息子は、素晴らしい学校生活のスタートを切れたと思います。

(大久保薫)

...

明日は学校? いつ学校? と楽しみにしていた日がいよいよやってきました。ようやく 1 年生になった! と誇らしげでした。2 年生保護者の方が心を込めて用意してくださった花かごが本当に嬉しかったようで、うちに帰るまでしっかりと自分で持っていました。毎日、少しずつ水を足し、「ぼくの! ぼくの! 」と大切にしています。

(紙谷愛)

...

入学前の保護者会から練習していた、入学式に保護者から子どもたちへ贈る詩と歌。「出発するのです」という詩の内容は、新しいことに臆病な息子を思うと練習の時から胸が熱くなりました。

簡略化された式次第となり、子どもの前で朗読と歌う事は叶いませんでしたが、式の中でライナーと長井先生のハミン

グで「おひさまのうた」が聞こえ始めると、あちらこちらからハミングが始まり、オイリュトニー室全体がハミングで包まれ、この日を待っていた全員の思いがハミングに乗っているような、あたたかい雰囲気を感じました。

両親揃っての参列は子どもの旅立ちを見届けられたとともに、親にとっての第一歩を意識する事ができたと思っています。ご配慮いただき、ありがとうございました。先生方、先輩の保護者のみなさま、これからどうぞ宜しくお願ひいたします。

(黒川明日香)

...

待ちに待った入学式の報告を受け、娘はやっと1年生になる！思いに気持ちが溢れていきました。式の当日は新1年生をお祝いする如く晴天でした。待ちわびていた入学式でしたが、娘は朝から緊張して気持ちが一杯になっている様子がわかりました。

入学式へ向かい学園に入ると和やかというより、直ぐに手を洗わなくてはならない状況でした。式が始まるまで子どもたちは教室で待ち、保護者はグループに分かれて密を防いでの待機でした。初めて尽くしの状況にどんな式になるのだろうと思っていましたが、待機中は一緒になった保護者さんたちと少し会話ができ、リラックスできました。式の時間になると、オイリュトニー教室に呼ばれ、まず保護者が子どもたちを待ちました。部屋では音楽の先生がライターで音を奏でていて下さっていて気持ちが落ち着きました。椅子もなく立ち見だったのですが、前にいた保護者は床に座り、皆さんができるように何事も無く調整し合う姿に流石だなと思いました。いよいよ式の始まりです。神田ひとみ先生の始めのお言葉で始まり、長井先生が短くご挨拶をしました。そして、子どもたちの名前を一人ずつ呼び、子どもたちは入場しました。本来なら握手をしての入場らしいのですが、今はまだ接触を避けなくてはならない時期なので、2年生保護者の方が作って下さった、お花が入ったバスケットを長井先生が一人ひとりに手渡しました。子どもたちはそれぞれ緊張している子、ニコニコ笑っている子、リラックスしている子など様々でしたが皆とても輝いていました。児童全員が一列に並んだ姿を見た時は、やっと1年生になれた嬉しさと、これからこの16人一緒に9年間学んで成長していくのだと思うと感極まりました。式の後、子どもたちは短い初めての授業を受け、その間保護者はまたそれぞれの待機部屋で待機をしました。最後は学園の外での写真撮影です。可愛い子どもたちの姿はもう1年生。式とは違って何か誇らしげな姿が伺えました。短い式でしたが、全てスムーズに行われました。本来学園の先生方等がいる中での式らしいのですが、今回は限られた先生たちの参加の式でした。しかし来る予定ではない先生方が最後1年生を迎えるために外で待っていて下さっていた姿を見た時、私たち1年生が温かく迎えられていることを実感しました。参加できる人数も限られ、時間も短縮など本来のような式のお祝いではなかったですが、先生方と在保護者の方の温かいおもてなしと思いがしっかりと届いた式でした。

た。そして何より娘の満面の笑みを久しぶりに見られ、誇らしく新1年生になれた姿を目撃できたことが嬉しかったです。

(黒木佐知子)



入学式開催を待ちに待っていた時間があったからこそ、長井先生とクラスのまだ会えぬ子どもたちがどんな子たちなのだろう？と想像を楽しむゆとりが持てました。

入学式で先生と16人の子どもたちが並んだ姿を見られた時のうれしい感動は一入でした。

この可愛らしい子どもたちが、先生の優しく力強い覆いの中で、これから9年間育っていく未来を楽しみにしています。

(古市千恵)

...

6月7日(日)に親子共々待ちに待った入学式が行われました。最近は、30℃を超える日もあったり、梅雨空もあったりしましたが、入学式当日は、天気に恵まれ、心地よい青空の広がる一日となりました。

5月の個別入学式キャラバンの時と同じく、天に守られている子どもたちだなあ、と改めて感じました。

学園の玄関をくぐると、すぐに長井先生の姿を探す息子がいました。先生に早く会いたい気持ちと姿を見る事で安心感を覚えたいようでした。初めてのことには、慎重な息子なので、スムーズに親から離れられるか心配でしたが、友達が並んでいる様子を見ながら、覚悟を決め、みんなの元へ歩みを進めていく姿に心の成長を感じました。

式が始まり、一人ずつ名前を呼ばれ、父母たちの前に姿を現します。息子の名前を呼ばれると、親の心配をよそに、キラキラとした表情で登場し、この瞬間を体全身で喜んでいるのが印象的でした。うんうん、と何度も頷いている私の姿を見て、満足げな表情で微笑み返す姿に目頭が熱くなりました。

写真撮影の為に外に出ると、他クラスの先生方の姿がたくさん見られ、お祝いに駆けつけてくださっていました。

また、入学式で頂いた可愛いお花は、2年生の保護者の方々が心を込めて作ってくださったものとお聞きしました。

本当に沢山の方々に愛され、見守られる中、一生忘れる事の無い、最高の入学式を行う事が出来、感謝しかありません。ありがとうございました。

(小林良太)

長い春休みの間、すっかり子どもと一緒にいる日常になっていました。親子密着の日々で、何となく赤ちゃんの頃の様な繋がりに戻った感じがしていました。

そんな中でやっと訪れた入学式。普通のカレンダーより、2か月遅れとなりましたが、長い期間待ったからか、より深く、子どもの「出発」ち「冒険の始まり」の節目なのだなあ、と感じた気がします。

子どもも朝から浮かれていました。クラスのみんなと並んで、誇らしそうな表情は忘れられません。

今年はその1か月前に長井先生が自宅に来てくださり、居間で初めての授業をしてくださいました。その最初の子どもが感動と共に新しいことに出合う姿に触れられたことも、大切な思い出です。

(小山哲哉)

横浜シュタイナー学園での入学式は初めて参加でしたので、コロナ影響下とはいえ、楽しみにしていました。

オイリュトミー教室に入るとハープ(ライア)の音色が静かに奏でられ、とても温かな雰囲気で、少しそわそわした気持ちが落ち着くのを感じました。そこに子ども一人ひとりの名前が呼ばれ、花かごを手渡され、16人が初めて並んだ姿を見ることができました。「これからどうぞよろしくね！」と心の中でつぶやいていると、聞き覚えのあるメロディーが聞こえてきました。例年歌っているという、保護者から新一年生へのプレゼントの歌です。「今年はコロナで歌わないかなあ」と思っていたのですが、ハープの演奏に合わせてどこからともなくハミングが！「そうか、なるほど」と納得しながらハミングのプレゼントができました。それは部屋中に優しく響いてとても心地の良いものでした。自然と流れに任せてこういうことができるのがシュタイナーなんだなあ、すてきだなあ、と感じました。親子共々期待と不安でいっぱいですが、これからどうぞよろしくお願いします。

(竹中翔子)

小学生（少し大きなお兄さん）になることや、勉強できることをずっと楽しみにしていましたので、入学式が風邪の人が多くて延期だと伝えると、もの凄く残念がって、なんでみんな風邪ひくの！と言っていた日が遠い昔のように感じますが、約2ヶ月遅れで入学式を開催していただけのことになり、親子共々、心底嬉しく思いました。入学式が中止になった学校や、入学式だけはあったものの、宿題もなく、そのまま休校になった1年生は寂びらりんという声もあり、学園では、通学できる状態になってから入学式をしていただけ、有難く感じました。

先生方や2年生の保護者の方々が、心を尽くして準備してくださいた空間は、何度も足を運んでいるはずの霧が丘校舎ですが、背筋がピンと伸びるような清々としているながら、温かい空気に包まれており、始めて足を踏み入れる感覚で、1階や、待合室になった教室、学園の至るところに、可愛らしいお花がいっぱい、心地の良い場所となっていました。

一人ずつお名前を呼ばれ入場し、長井先生から素敵なお花を手渡していただくとき、大きな声で返事をする子ども、カチコチで歩いてくる子ども、満面の笑顔で会場を見ている子ども、一人ひとり違った形で入場し、綺麗なお花を受取っていました。息子の名前が呼ばれ、注目していると、肩で風を切って歩いてきましたが、本人はとっても緊張した面持ちで、このドキドキを隠す(?)ために、この登場なんだと、クスッと笑ってしまいました。保護者が揃って同席でき、子どもたちの様子を、みんなで見守る時間が尊く、その場にいる方々が一つになっている感覚が強くあり、生まれた日から、今日まであつという間で、あんなに小さかった赤ちゃんが、もう小学生なんだと思ふ程、感極まって目頭が熱くなり、短縮版の入学式だと思ふ程、心に残る温かい式となりました。

当初は、密を避ける為に、保護者は一名のみ参加の予定でしたが、この時を家族で共に過ごすことができ、様々な懸念事項をクリアにし、式を形にしてくださった先生方、保護者のみなさんには深く感謝しています。ありがとうございました。

(マーティン幸得)



4月から1か月の自粛生活、子どもの自然な好奇心や何かを学びたいという気持ち、新しい世界に入って行きたいという気持ちがどんどん大きくなっていくを感じていました。親子でも長いトンネルにいるような…毎日でした。

そんな時の家庭訪問キャラバン入学セレモニー。一つの光が射したような、目指すところが決まったような、初めての授業を受けました。「大地の上にしっかりと立ち・・」と言う声と床を踏みしめる足音が聞こえてきて、体に響きを感じました。

それからまた一か月、フォルメンの課題と親子で向かい合い、(山あり谷ありでした・・)少し慣れてきた6月7日。待ちに待った入学式でした。短時間で、簡素な形式で、との制約がありました。原口先生のライアの響きで教室にすっとした清々しい空気が流れていきました。その中で、長井先生が力強く一人ひとりの名前を呼ぶ声に、子どもたち一人ひとりが花かごを受け取り、少し笑顔で前を向きました。「16人の16期生です！」初めて揃って前を向いた子どもたちと先生。おめでとう！新しい仲間にやっと会えたね。とお祝いの



気持ちでいっぱいでした。主人は少し涙ぐんでいました。全員揃っての子どもたちだけの初めての授業。教室にまた足音が響いていました。外で待っていた私たちは16人の子どもたちと先生の顔を見て、やっと拍手ができ、とても晴れやかな気持ちになりました。

今回、集って式ができたこと、とても嬉しかったです。安心してスタートできることを実感しています。

準備してくださった先生方、保護者の皆さん、どうもありがとうございました。

(山口秩香子)

・・・

コロナの影響で、楽しみにしていた学校になかなか行けない状況が続きましたが、このような状況下、人生に一度しかない小学校の入学式を二度も行って頂き、先生方および関係者の皆さんに感謝いたします。

また、すてきなお花を用意してくださった保護者の皆さん、有難う御座いました。入学式を迎えた、凛々しくも可愛らしい16名が9年後どのように成長しているのか、今から楽しみでなりません。この先いろいろあると思いますが、子どもと一緒に学校生活を楽しんでいきたいと思います。

(百合野剛)

・・・

それは、天気予報をさらっと裏切る晴天の日。この状況下でもさまざまな工夫を凝らし、式を開催してくださり、夫婦で参加できることに感謝の気持ちでいっぱいでした。

優しいピンク色の部屋に響くライターの音色を聴きながら、子どもたちが学びに出会うときがやって来たのだと、マスクの下の口元が緩みます。子どもたちの名前がひとつずつ呼ばれ、先生から美しい花かごを頂きました。私もその瞬間、「親子ともどもやっとこの学園の一員になれた」ことを実感し、神田ひとみ先生の「9年間の航海の船出の日」という言葉に、こみあげるものがありました。

短い時間でしたが、心からの歓迎を身体全体で感じる、あたたかな式でした。子どもたちの顔からは、"もうこれ以上待てない!"という溢れる気持ちがひしひしと伝わってくるようでした。

9年に1度の入学式。帰宅した後は、良い香りのする花かごとケーキを囲み、家族でお祝いし、忘れられない大切な、大切な1日となりました。

(横山有理)

・・・

横浜シュタイナー学園は今年度初めて6月に入学式を行うことになりました。「新型コロナウイルス感染症拡大」を受けて臨時休校が続いていました。いつになったら学校に行けるのだろうという気持ちを親の私たちも子どもも持ち続けていました。担任の長井先生は、他の学年では行ったことがない、「個別入学式キャラバン」を提案してくださいました。分散している1年生の家庭に行き、各家庭で担任と子どもが初めて対面し、最初の授業を行う、という企画を立て、本当にそれを実現させてくださいました。うちには、長男が転入し、次男は1年生から学園に入学し、その時の入学式のことを覚えていて、感動しました。が、今回の三男の入学式は、今までと違い、忘れることができない、素晴らしい思い出になりました。

そして、ずっと待ちわびた入学式がめでたく行われるようになりました。一番印象に残ったことは、担任の長井先生から「花かご」を受け取るところです。我が子ももちろんですが、これから一緒に歩んでいく子どもたちの顔をずっと目に焼き付けておこうと思いました。この16期生が卒業する時には、どんなお兄さんお姉さんに成長するか、楽しみです。

(吉田紀子)



【お家の学校報告】

3月から始まった休校は、そのまま春休みをはさみ、丸3か月続くこととなりました。それぞれの家庭で、それぞれの状況の中、子どもと過ごした休校期間。その時の様子を、学園の専科教員であり保護者でもある伏見あかね先生が自身の記憶と思いとともに寄せてくださいました。

記憶、感覚を呼び覚ます日々

自分の幼い頃の記憶、小学校での記憶はどこまで辿れるのかと、ふと思った。通っていた保育所の大好きだった先生が、『思い出のグリーングラスホーム』という歌を、ギターを弾きながら歌ってくれたこと。そしてクレヨンで描いてくれた男の子と女の子の絵のこと。おそらく年長児の頃。小学1年生の時に、クラスの吉田君とつかみ合いの喧嘩になったこと。2年生の時、音楽の先生が作詞作曲した歌が大好きだったこと。3年生の時の担任の先生がめちゃくちゃ怖かったこと。4年生の新任の先生と放課後校庭で野球したこと。5年生と6年生、担任の先生が書く板書の美しさに感動したこと。

いつの頃からかわたしは、絵を描くことが好きになつた。母が絵を描くことが好きだったので、その影響かもしれない。大した絵は描けないが、中学時代は、よくノートの隅にイラスト的な絵を描いていた。祖父は証書や賞状などの筆耕さんや、書道の先生をしていて、年老いても美しい字を書く人だった。その血を受け継いだのか、父も字を美しく書く。わたしは、その字を真似て何度も何度も字を書いていた。きれいな字を書ければ、漢字の意味よりもわたしには意味があったように思う。祖母は、生まれつき目が悪く、牛乳瓶の底のような眼鏡をかけていた。目が悪いぶん耳がよく、歌が上手かった。若かりし頃、ビクターの歌手になりたかったが眼鏡顔が原因で落ちた、という眉唾物なエピソードを聞いたことがある。

未曾有の事態により、3月から学園も休校となつた。唯一、卒業を間近にひかえた9年生との最後の時間を、心に刻み込んだ。新年度になっても学校再開の目処は立たない。長女は学園の4年生になり、次女は、横浜シュタイナーどんぐりのおうちの年中さんになったが、登校・登園できない日が続くことが予想された。そのうちに長女の担任の先生から、休校中に家庭で行う課題が届くようになった。『おうち学校 & おうち幼稚園』が始まった。

15年ほど前、音楽教室でピアノと声楽を教えることに喜びを得られなくなってしまったわたしは、単身ドイツへ渡った。ハンブルグにあるヴァルドルフ教育教員養成ゼミナールに入った。あまりよく考えずに入ったら、音楽教師のためのクラスではなく、担任教師のためのクラスだった。ドイツ語と格闘する日々を終え帰国し、横浜シュタイナー学園で音楽専科教員として働くことになった。担任という仕事に憧れた時もあった。

おうち学校 & おうち幼稚園が始まり、家にある黒板が大活躍した。漢字の学びは、漢字の成り立ち、読み、

例文がセットになっている。一文字一文字、丁寧に進めていく。色鉛筆で書かれる娘のノートは、色鮮やかに仕上がっていく。合間に次女と粘土をこね、また長女のほうに戻り、今度は数の学び…。時間は長くはないが、毎日続けた。そしてもう一つ、毎日続けたのは、黒板絵を描くこと。シュタイナー学校の黒板は、いつもカラフルなチョークで絵が描かれている。季節の花であったり、エポックで学んでいることの絵などたりする。ドイツの実習先の学校でも、3年生のクラスの黒板には、旧約聖書創世記より、バベルの塔の絵が堂々と描かれていた。学園の担任の先生による板書や黒板絵の美しさに、いつも感動している。その雰囲気を、娘のためというよりかは、自分のために作った。

字を書くこと。絵を描くこと。歌を歌うこと。わたしが昔から大好きだったこと。休校前までは、忙しさの中で、忘れていたが、今回、家で過ごす時間が増えたことにより、幼い頃の記憶、感覚が、むくむくと呼び覚まされた気がしている。絵を描く時のなんともいえない感覚。それを懐かしく感じている。

シュタイナー教育であるがゆえの、この事態での学びを充実させることの難しさはある。日々教師が意識して取り入れている、息遣いを感じられないからだと思う。けれども逆に、シュタイナー教育だからこそ、この状況での学びをもとに、世界を広げていける可能性を大いに秘めているとも思う。

娘たちも、大きくなつて、何かのきっかけで、この数ヶ月のことを思い出してくれるといいなと考えている。

(音楽専科教員・4年生保護者

伏見あかね)



インフォメーション

～詳細やお申込方法については学園サイトをご覧ください～

2020年度入学説明会

【A】「シュタイナー教育とは」「教育内容について」

【B】「保護者の学園への関わりについて」

※A→Bの順で両方の回に必ずご出席ください。

参加費は無料です。

8/2(日) 入学説明会 A (10:00~12:00)

9/9(水) 入学説明会 A (17:00~19:00)

9/12(土) 入学説明会 A (14:00~16:00)

9/16(水) 入学説明会 B (17:00~19:00)

9/19(土) 入学説明会 B (10:00~12:30)

9/20(日) 入学説明会 A (14:00~16:00)

9/27(日) 入学説明会 B (10:00~12:30)

*日程等の変更や中止の可能性があります。

最新情報は学園サイトでお知らせいたしますのでご確認ください。

～事務局より～
ご支援ありがとうございます。
大切に活用させていただきます。
(順不同・敬称略)
よこはま夢ファンドを通してのご支援： 齊藤穂、坂田嗣生、
足立久美子、河合雅樹
一般ご寄付：山本忍（神之木クリニック）、荒木美知子、
金田治子、川島好子、小澤昌弘、室恵子、星の金貨
大変な状況の中でも、学園にお気持ちを寄せてください、
心より感謝申し上げます。

SNSはじめました！

横浜シュタイナー学園

Facebook公式ページとInstagram公式アカウントを開設しました。

FB

<https://www.facebook.com/steineryokohama>

Instagram

yokohamasteiner



ぜひ、フォロー、お友だちへのご紹介をお願い致します。

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.jp

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番 029 支店名 029店 (セブン銀行店) 当座 013702

【公開行事中止のお知らせ】

新型コロナウィルス感染拡大防止の配慮から、

一学期に予定していました公開行事はすべて中止とさせていただきます。

夏休み以降の公開行事につきましては、学園サイトでお知らせいたします。

【大人のオイリュトミーにつきまして】

2020年度大人のオイリュトミーの開催は見送ることになりました。

また、次年度以降の再開も現在は未定です。

決まり次第、学園サイトやニュースレター等でお知らせいたします。

☆星の金貨より☆

スクールショップ星の金貨では、子ども用・大人用のマスクを販売しています。生地は綿や麻の天然素材です。

平日の学園の開いている時でしたら、どなたでもお買い物いただけます。

お気軽に立ち寄りください。

事務室にお声掛けください。

お問い合わせのメールアドレスが変更になりました。

hoshino.kinka7@gmail.com



YSGメールマガジン配信中

公開講座やイベント開催など、学園のさまざまなトピックをメールでお知らせします。

ご希望の方は学園WEBサイトよりご登録ください。

横浜シュタイナー学園

～Newsletter 第131号～

2020年6月24日発行

編集： 広報の会

発行： NPO法人 横浜シュタイナー学園

<https://yokohama-steiner.jp>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載をお断りします